

日時：令和元年6月5日（水）午後2時より

会場：昭島市公民館 3階 第2会議室

出席：菅沼（小金井市）、久米（小平市）、佐藤（日野市）、横山（狛江市）
森田・中里・宮鍋（東大和市）、小笠原（研修担当）、荒井・伊藤（顧問）
吉村・遠藤・渡辺・小松（昭島市）

1 開会

昭島市公民館 吉村館長より挨拶

2 自己紹介

各市担当者、顧問より自己紹介を行った。

配布資料の名簿、小金井市の欄に訂正あり。

【誤】委員部会副部会長 → 【正】委員部会部会長

3 大会運営の実施方法等について

(1) 大会名：第56回東京都公民館研究大会

メインテーマ案「公民館の役割、再発見～新たな広がりをめざして～」

【メインテーマについて】

- ・前向きな明るいテーマにしたい
- ・学びを支える公民館の役割を考えたい。
- ・公民館の利用者の固定化、若者の利用促進について
- ・公民館の今後について市民に分かりやすく発信できるようなテーマ
- ・公民館活動を残すことの必要性を周知できるようなテーマ
- ・時代に合わせて公民館の役割を再確認していけるようなテーマ
- ・課題別集会のなかで課題の解決をしていき、全大会の中で希望のあるものをやればよい
- ・公民館の本来持っていた役割の変化について、あるいは役割の中で変えてはいけない部分を確認しあう機会にしたい
- ・公民館職員が社会の出来事や変化に目を向ける機会にしたい。

【公民館の課題】

- ・市民が公民館をどう理解して使っているのか（公民館の貸館化）。
- ・職員が大会の内容や反省を自分たちの事業に生かしているのか。
- ・公民館の発信力の弱さ。
- ・サークル参加者の高齢化、固定化、少人数化。
- ・公民館の横のつながりである利用者連絡会などの役員が高齢化を理由に固定化している。
- ・若者や新しい人の公民館活動への参加が少ない
- ・社会教育が行政の中で評価されていない、関心をもたれていない。

- ・就学した子どもを持つ親世代のサークル活動が少ない。そういった世代を取り込むためにどのように魅力を発信すればいいのか。
- ・職員が公民館について学び、力をつける必要がある

- ・若者や新しい人の公民館活動への参加が少ない

【その他の意見】

- ・若者を公民館に呼ぶには、自分たちの市に若い人がどれくらいいて、どういう状況に置かれているのか調べる必要がある。
- ・若者に関することについては、若い人を集めて企画を考えてもらった方が良いのではないか。

- (2) 日時 令和2年2月1日(土) 午前9時30分～午後4時(時間は予定)
時間に関しては、午後の分科会が長いという意見と短いという意見が出た。
また、初めの式典についての意見も出たため、事務局で再度意見を揉み決めることとした。

- (3) 会場 KOTORIホール(市民会館)、公民館、
保健福祉センター「あいぽっく」

- (4) 形態 午前：全体会(基調講演)、午後：分科会

- (5) 課題別集会(担当市・部会) テーマ

- (6) 令和元年度 都公連特別会計予算
 - ・講師謝礼→内訳は予算書・説明欄に記載のとおり
 - ・全体会会場として使用料49,000円計上

4 大会運営のスケジュールについて

第2回 7月3日(水)→7月4日(木) 都公連の新任研修最終日のため変更
9月については日程がしっかり決まっていないので次回に。
2月については職員部会と調整。

5 その他

スケジュール案では7月になっている課題別集会についてテーマ決定となっているが、8月までに変更。大体の方向性を決める。